

# JEAS 環境アセスメント士 紹介

このコーナーは、各支部の推薦により環境アセスメント士を紹介しています(五十音順に掲載)。

JEAS  
in  
Hiroshima

## 環境アセスメント士になって

復建調査設計株式会社は、主に西日本に支社・事務所を配置し(東京以北では仙台、札幌、海外ではミャンマーに事務所があります)、地盤環境、防災、空間情報、社会基盤整備、環境、計画・建築、交通計画などの分野を中心に、総合建設コンサルタントとして業務を行っています。



復建調査設計(株)  
TEL.082-506-1837  
<http://www.fukken.co.jp/>

このうち、環境分野は、水圏環境、新エネ・資源循環、空間創造(生活環境系の調査・予測・保全計画等)、生物環境の4つの課から構成され、本社の広島を拠点に、東京、大阪、福岡にサテライトオフィスを設けています。

私は入社後、主に港湾事業、廃棄物処理事業、道路事業等に係る環境影響評価業務を担当してきました。現在は、環境技術部空間創造課の一員として、本社広島で環境影響評価業務、環境保全計画検討業務などを行っています。

環境アセスメント士の筆記試験では、私が経験した条例アセスを題材に、コミュニケーション(住民が理解しやすい説明資料の作成等)に係る課題及び解決策等について記述しました。

本資格取得後は、本資格が受注の資格要件に指定されている業務の機会がなかったこともあり、対外的なアピー

生活環境部門(H17年)  
大下 茂



ルになっていない状況ですが、自分自身の発言・行動に対する責任感が強くなり、自己研鑽意識の向上につながりました。

また、社内では、プロポーザル作成において、環境配慮事項等に関する相談を受けることが多くなったと感じています。さらに、環境アセスメント士取得に向けた取り組みが、その後の技術士(建設部門/建設環境)合格にもつながりました。

最後に私事ですが、わが家では妻が家庭菜園、息子がカブトムシの飼育に熱中しています。理科離れが懸念されている現在において、理系一家?で頑張っています。今後も私が生活環境部門、妻と息子が自然環境部門?の技術者として、家族一体で資質の向上に努めていきたいと考えています。

JEAS  
in  
Hiroshima

## 環境アセスへの思い

### 【会社紹介】

中電環境テクノス株式会社は、中国電力グループとして火力・原子力発電所の環境保全設備や発電に必要な付属設備の運転、化学分析、環境調査、海運など、環境分野を主体とした技術と幅広いサービスを提供しています。

私が所属する環境部環境調査グループでは、①環境影響評価法などに基



中電環境テクノス(株)  
TEL.082-242-0291  
<http://www.e-ckt.jp/>

く各種手続き、環境調査などの総合コンサルタント、方法書、準備書、評価書など各図書作成、②水質、底質、海生生物、大気、騒音・振動、農作物・樹木、社会環境などの調査及び解析、③環境調査計画資料の作成、環境用語集の作成やパソコンによる作図、作表などの業務を行っています。

### 【携わっている業務】

私は、入社以来約30年間にわたって環境調査業務を担当しており、主に火力、原子力発電所の建設などの環境アセスメントにおける海域の水質、底質、海生生物調査に携わってきました。近年では、これらの業務の他に、テレメータによる大気汚染物質の連続測定業務なども行っています。今後も、いろいろな業務に携わり、環境分野の幅広い知識を習得したいと思っています。

### 【環境アセスへの思い】

自然環境部門(H20年)  
下西 孝



私は自然と触れ合うことが大好きで、子供の頃(昭和30年代)は、カブトムシ、クワガタ、フナ、トンボなどを捕ることに熱中していました。しかし、開発が進むにつれ、これらの生物の生息場所が減少し、以前ほど簡単には捕れなくなってしまいました。「開発」による「生息場所の減少」という事実を子供の頃に体験し、環境アセスメントの重要性を認識しています。

環境アセスメントがこれまで以上に十分に機能し、「開発」と「生物多様性の維持」という相反する課題を克服し、100年後も生物多様性が維持されることを願っています。また、環境アセスメント士として微力ではありますが、「開発」と「生物多様性の維持」の両方に貢献していきたいと考えています。

JEAS  
in  
Nagasaki

## 環境アセスメント士資格に対する期待

西部環境調査株式会社は九州の西の端、長崎県佐世保市の東部に位置する三川内地区の佐世保テクノパーク内に本社があります。

当社は陸域調査部門、海域調査部門、分析・解析部門の3部門で構成され、幅広い環境分野に取り組んでいます。陸上・海域両部門ともに物理環境分野、生物分野及び化学分野の専門スタッフ



西部環境調査(株)  
TEL.0956-20-3232  
<http://www.serc.jp/>

をそろえ、多角的な調査・解析・評価を実施しております。

わが社では、「地球的に考え、地域的に行動しよう」というWHOのテーマを掲げ、「グローバルに考え、ローカルに行動する」をモットーに、「顧客の満足のため、顧客ニーズの追求に努め、環境調査で社会に貢献する企業を目指す。」をISOの品質方針とし、自然界の現象を適正・的確に計量・調査・研究し、適切なアセスメントを行うことにより、長期的な環境保全の「みちしるべ」を提示できればと考えながら業務にあたっております。

私が環境アセスメント士を受験した理由は、開発で失われる自然・野生生物を保全する仕事にもっと携わっていききたいという思いからでした。

しかし、残念ながらこれまで環境アセスメント士の資格を活用できたのは、

自然環境部門(H17年)  
中原泰彦



1例のみときわめて少ないのが現状です。私は

技術士(建設部門/建設環境)を取得しており、こちらは管理技術者の資格要件として頻りに採用されています。環境アセスメント士の資格に対する認知度、信頼性がより一層高まることを願います。

環境アセスメント士の継続教育(CPD)制度では、5年間で250単位を取得することが更新の条件となっています。CPDの取得は、私にとっては予想以上に厳しく、高いハードルでした。

CPDによる更新制度は、技術士には現在のところ存在しないため、環境アセスメント士の信頼性向上へのアピールポイントとなると考えられます。間近に控える更新がそのよい機会となり、環境アセスメント士の活躍の場が大きく広がっていくことを期待しています。

JEAS  
in  
Aichi

## 「技術士」取るなら「アセス士」も

生活環境部門(H17年)・自然環境部門(H18年)  
吉田 謙



私の勤務する株式会社テクノ中部は、名古屋市に本社がある中部電力グループの会社です。事業としては、環境調査・測定・分析の他、発電所における各種設備の運転・管理、発電所燃料の荷役・通関、石炭灰の販売、海事コンサルタント等多岐にわたります。

このうち環境技術部門は、会社設立以来30年以上にわたり、環境アセスメ



(株)テクノ中部  
TEL.052-614-7167  
<http://www.techno-chubu.co.jp/>

ント、水質・生物・大気・騒音等の各種環境調査、測定・分析及び研究を実施してきており、環境に関して幅広く豊富な実績があります。特に、魚類等水生生物の行動把握やモニタリングに有効な、バイオテレメトリー技術は、誇ることでできる技術の一つです。

私は、平成3年に入社以来、カジメ類・ガラモ類の藻場造成、発電所へのクラゲ流入防止研究、発電所へ流入した海生生物の有効利用調査、海域・河川の水質・水生生物調査、発電所関連の海域モニタリング等、水域の各種環境調査・研究に携わってきました。

また、業務の傍ら自己研鑽にも励み、技術士(水産部門・建設部門)、環境計量士(濃度関係)等の国家資格を取得しました。環境アセスメント士については、平成17年度に生活環境部門、18年度に自然環境部門と、両部門を取

得しております。取得のための勉強について

は、技術士の受験時期とほぼ重なっていたので、環境影響評価の基本を一通り再確認する程度でしたが、何とか合格できました。現在あるいは近い将来技術士取得を目指している方、ぜひ環境アセスメント士にもチャレンジして、一兎のみならず二兎も三兎も得てください。

名刺に環境アセスメント士を入れて4年以上になり、客先等から資格について尋ねられる度にPRをし続けています。まだ認知度の低い資格ですが、資格の認知度や信頼性の向上に少しでもつながればと思います。

今後とも微力ながら、自己研鑽と業界・資格のPRに努めていきたいと思っております。